

優秀実践校、図書館、団体の紹介

○津市立豊が丘小学校

(つしりつとよがおかしょうがっこう)

全学年で読み聞かせを実施しており、校長が取りまとめの中心となり、地域ボランティア、図書ボランティア、PTA等が連携して取り組んでいる。

総合的な学習の時間や各教科の授業で県立図書館や市立図書館の図書を活用している。また、授業の関連図書は該当学年の廊下に掲示し、児童が手に取れるようにしている。

○名張市立薦原小学校

(なばりしりつこもはらしょうがっこう)

平成22年に発足した地域読み聞かせボランティアによる地域と一体となった組織的な活動が行われている。

児童主体の図書委員会活動として、読書の魅力を友だちに伝える「読書のリーダー」の活躍の場を作ったり、借りた本の記録を積み上げていく「読書貯金通帳」の取組を実施したりすることにより児童の読書機会を広げている。

○三重県立いなべ総合学園高等学校

(みえけんりついなべそうごうがくえんこうとうがっこう)

さまざまな授業で学校図書館を活用し、学校図書館・司書を活用した授業時数を、昨年度の26時間から138時間に増加させた。

「生きるとは」や「ふつうとは」といった哲学的なテーマについて、講師を招き、生徒と教職員等の参加者がお互いの意見をよく聴き、質問しながら一緒に考える、「哲学対話」を実施している。

○いなべ市藤原図書館

(いなべしふじわらとしょかん)

蔵書資料の約9割が絵本と紙芝居であり、フロアを囲むように絵本の棚が配置され、子どもや保護者が本を選びやすいよう年齢別おすすめ本リストの配布をしている。

市内小中学校で活躍する学校図書館コーディネーターと連携し、市内小学校の読書活動を推進している。

○おはなしボランティアどうようっこクラブ (伊賀市)

(おはなしぼらんていあどうようっこくらぶ)

子育て支援センターや放課後児童クラブでの定期的な活動と高齢者施設や書店のイベント、地元の美術館でも読み聞かせを実施している。

地域の郷土史の民話を読み聞かせできる物語として整えることで、読み聞かせを軸にした幅広い活動となり地域文化の継承に大きく寄与している。